ンスビル4F
-225-2271

通信局・部
市川 047-334-4151　銚子 043-224-8155
船橋 047-410-1631　木更津 0438-37-0171
松戸 047-344-0117　柏 04-7164-0057
成田 0476-23-0866

集金・配達お問い合わせ:03-6910-2556　広告のご用命:043-225-6411

諸願祈願
鹿野山神野寺
☎0439(37)2351

千葉中央

地域防災力向上のヒントに

創設の県知事表彰に4団体

千葉市生実町 独自広報スピーカーなど評価

優れた地域防災・防災教育活動を表彰する県の「地域防災力向上知事表彰」が創設され、自主防災組織二団体と学校二校が表彰された。表彰団体の一つ、千葉市中央区の「生実町防災会」は、独自の防災広報スピーカーの設置など情報伝達の充実が評価された。防災会の母体となる生実町町内会（内山忠久会長、約千六百四十世帯）は、町内会全体で防災に取り組み、大規模災害に備えている。

（小川直人）

町内の高台に、町内会費で独自に設置した防災広報スピーカーがある。もともと、町内会の火の見やぐらがあった場所だから、設置場所はすぐに決まったという。広範囲に届くよう、向きの違うスピーカーが五基ある。

市の防災行政無線が聞こえにくいという問題もあったが、町内会が独自の緊急放送を行うことも目的の一つだった。それでも全世帯に完全には届かない。内山会長は「何かあったと伝われればいい。あとは隣近所に伝えてもらう」と話す。

隣近所への伝達を容易にするため、町内会では五十以上ある「組」単位での行動を促している。

これまでの防災訓練でも、声を掛け合って複数で行動したり、手助けがあれば訓練に参加できるという高齢者らにも声を掛けて実際に避難所に避難してもらったりした。

町内会の婦人会は独自に、災害時に玄関に掲げて安否を知らせる布を自作して各家庭に配った。町内会の役員が集まる会合や行事の中に避難訓練を取り入れることもあるという。内山会長は「防災について常日ごろから考えることが大事だ。それによって町内会内でいろんなアイデアも出るようになった」と説明する。

◇

県は地域の防災活動の参考にしてもらおうと、表彰制度を創設した。県のホームページで表彰事例を紹介する。県の担当者は「創意工夫や活動の継続性、他地域への広がりなどが評価のポイント。活動のヒントになれば」と話している。

自主防災活動の部では、流山市の美田自治会も選ばれた。避難に援護が必要な高齢者ら一人に対して、四人の支援者を配置する名簿を作成するなど、避難体制を充実させている。

学校の防災活動の部では、旭市立飯岡小と南房総市立三芳中が選ばれた。

飯岡小は東日本大震災の被災経験を生かした実践的な防災教育が、三芳中は独自に「防災マニュアルブック」を作成し、地域ぐるみで防災訓練を行っていることがそれぞれ評価された。

独自の防災広報スピーカーを紹介する内山会長＝千葉市中央区で

婦人会が作成した安否確認のための布

ちばライブ Chiba Live

学生

27年の変化 世相浮き彫り

千葉大学教育学部元教授（教育社会学）の明石要一さん（六五）が、指導ゼミの教え子とともに、ここ三十年で在校生の生活様式や意識がどう変わったか、比較調査をまとめた。世相を反映し、年代によって異なる学生像を浮き彫りにしている。（堀場達）

・3％→58・0％→82・6％と、急速に普及したことが背景にあるようだ。

テニスラケットは42・4・9％→71・1％→50・4％）②「部活」（50・2％→42・6％→20・7％）③「サークル」（43・9→41・6％→9・1％）④「高校時代」（10・4％→12・2％→1・8％）―の順だが、いずれも著しく下降線をたどった。

新たな利用者を迎える「いぶきの広場」の歓迎式＝松戸市で

新利用者は女性ばかりで、ともに松戸特別支援学校を卒業した十八歳。新利用者らが会場入りすると、先輩の利用者や職員、保護者、来賓らが祝福の拍手で出迎えた。施設を運営している社会福祉法人